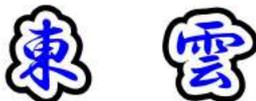




教育研究所だより



第281号



2018年12月3日(月)



## 平成30年度 教育講演会 約650名の参加がありました！

10月26日(金)、平成30年度教育講演会が開催され、昨年の2倍となる約650名の参加がありました。



具体例を挙げながらわかりやすく説明する赤堀先生



花束...ではなく、会場の豊見城市産泡盛をプレゼント！

### 講演会の内容

- 【講師】帝京大学大学院教職研究科 教授 赤堀博行 氏(前文科省教科調査官)
- 【演題】道徳科の特質を生かした授業改善と評価 ～特別の教科 道徳にどう対応するか～
- 【内容】

- 道徳の特別の教科化の背景
- 実施に向けて各学校で行うべきこと
  - ・学校の道徳教育目標を明確にする
  - ・学校の重点内容項目を明確にする
  - ・重点内容項目に関わる具体的な指導の機会、時期の明確化
  - ・道徳教育の全体計画、別業の作成
  - ・年間指導計画の整備
  - ・道徳授業の確実な実施
  - ・考える道徳授業の創造
  - ・道徳授業を視点とした学校経営(カリキュラムマネジメント)

参加者からは、「評価について曖昧でしたが、今日の講話で理解できました。(小学校教諭)」、「2名で参加した。他の学校のように全員参加にすべきだった。惜しいことをした。(中学校教諭)」等の感想が見られ、今回の講演会が、今後の道徳教育の推進に大きな役割を果たすことができたのではないかと自負しております。研究所職員一同、今後もよりよい研修事業の実施にむけ、頑張ります！



来年度も赤堀先生の講演会を実施します！

日時：2019年6月14日(金) 乞うご期待！

## あいさつができる子どもを育てる

師尾喜代子著「あいさつができる子どもを育てる」より

あいさつ・返事・後片付けは、躰の3点セットであるが、声を出すという点から、あいさつと返事は訓練に似た習慣づけが必要である。

あいさつは、その子の気の持ちようが表れるのである。表情の暗い子は元気な声であいさつはできない。あいさつができる子どもを育てることは、明るい表情ができる子を育てることなのである。～中略～

子どもの明るい表情は、健康的な環境をつくる事から始まる。朝、「いってらっしゃい」と元気よく送り出してあげることである。朝からとても不機嫌な子がいる。ほとんどの子が朝から親子げんかをしている。その内容は単純なことから、複雑なことまで多岐にわたるが、子どもの症状としては、ほぼ同じである。友だちにあたり、忘れ物をし、先生に注意され、けんかをし、また不機嫌になる。悪循環である。

「元気のよいあいさつ」をする子は、もう一つ共通項がある。よく食べる子である。好き嫌いなく食べる子は健康的で多くの子のはつらつとしている高学年になる。

## 12月の主な行事

4	火	幼児教育自主講座② 沖適連担当者会⑧
		園内研修支援(与那原幼稚園)
5	水	ヒアリング⑤(検証授業) 所内研修「琉舞①」
6	木	第1回沖縄県算数数学授業づくり研究会支援 第2回指導講師連絡会
7	金	次年度検討会① 沖適連体験活動交流会 沖縄女子短期大学との連携推進会議
10	月	指導講師検討会③(～12/12)
12	水	離島四村出前講座(久高小中学校)1日目 所内研修「琉舞②」
13	木	離島四村出前講座(久高小中学校)2日目 第2回島教連理事会
17	月	次年度検討会②
18	火	所内検討会③(検証授業)
19	水	所外研修③特設授業「先輩教師に学ぶ」(沖縄女子短期大学) 幼児教育自主講座③
20	木	次年度検討会③ 所内研修「琉舞③」
21	金	所内講座⑨(模擬授業)
23	日	天皇誕生日
24	月	振替休日
26	水	年末大掃除
27	木	県立総合教育センター教育講演会
28	金	御用納め式
31	月	大晦日

「反抗期」に入ると、親としてもどのように対応したらよいか不安になる時期がある。そんなとき、一番大切なことは、子どもに媚びないことと、振り回されないことである。子どもが、返事をしても、しなくても、今までと同じように「おはよう」と言い続けることである。台風が過ぎていくように反抗期も過ぎていく。そして、また、あいさつができるようになる。



三線講師：金城佳隆先生 JICA国際協力機構の研修員との交流研修

**平成30年度 島教連活動報告会**

日時：平成31年2月13日(金) 17:30～

場所：南部福祉センター 1階ホール

内容：域内教育研究団体の活動報告 等

※詳細は各教育関係団体に御案内します